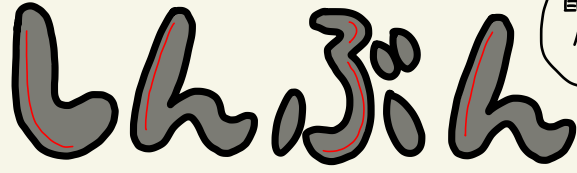


タイ北部に生息している
クリンゴン・イモリ
(最近おっかつた)



Vol. 73



自分
ハテ”な
イモリやア



発行日：2023年 4月 18日

発行：朝日塾中等教育学校 理科

イモリって何で逃しちゃダメなの？

自分が飼育しているアカハライモリが逃げ出したり、または飼えなくなって逃がしてしまったりした場合、どんな影響があるのでしょうか。

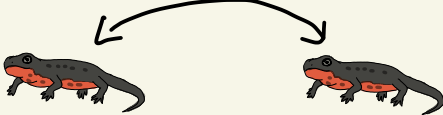
アカハライモリは日本在来の両生類であり、本州、四国、九州など広範囲に生息しています。アカハライモリが逃げたところで、元々いる生物だから影響はないんじゃないか…と思う人もいるかもしれませんが、しかし、同じアカハライモリに見えても、同じアカハライモリではないかもしれません。どういうことでしょうか。

例

① 同じ地域出身

同じ池、水路など
ごく近い範囲

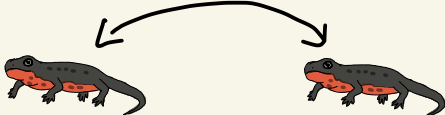
同じイモリ



② 別の地域出身

(山を隔っている、大きな川がある)

別のイモリ



同じ「アカハライモリ」でも、出身地域がちがうと別のアカハライモリです
※交雑は可能です

えー…同じアカハライモリなのにちがうの？



私たちの人間は、一人一人同じように見えますが、中身（遺伝子）がちょっとずつ違います。イモリなどの両生類（というか、移動範囲が狭い動物など）は、その一匹一匹の違いが人間よりもとても大きいので、同じイモリに見えても全然違うイモリだったりします。

このように、遺伝子が多様であることを、「遺伝的多様性」と言います。両生類などの移動に制限がある生物は、同種内の遺伝的多様性が大きくなることがあります。別地域のイモリ同士を交雑してしまうと、この遺伝的多様性が小さくなる場合があります。

遺伝的多様性は、大きい方がいいのでしょうか。次回紹介します。

※注意

人間の遺伝的多様性は、他の生物に比べると非常に小さいです。いくらでも交雑圏内です。

次回 アカハライモリの交雑って何が悪いの？